

発生日	国名	種別	概要
2021年 4月4日	インドネシア 東ティモール	土石流	インドネシア東部と隣国の東ティモールで4日、豪雨による水害と土砂災害が発生し、少なくとも91人が死亡したと、当局が5日明らかにした。また、行方不明者も多数出たと報じた。インドネシアのフロレス島 (Flores Island) から東ティモールにかけての島々が大きな被害を受けた。ダムから水があふれ、住宅数千戸が浸水。被災地では5日も荒天が続き、取り残された住民の救助活動は難航した。インドネシア国家防災庁 (BNPB) は、少なくとも70人が死亡し、70人が行方不明になっていると発表した。特に、東フロレス (East Flores) では44人が死亡、9人が負傷し、多くの人が土砂に埋まると明らかにした。また、東ティモールでは、当局発表によると、少なくとも21人が死亡したと報じている。
4月30日	インドネシア	土砂崩れ	インドネシア国家防災庁は30日、スマトラ (Sumatra) 島で豪雨により土砂崩れが発生し、中国の支援で建設中の水力発電所で少なくとも3人が死亡、さらに行方不明者の情報もあり、死者は増えるおそれがあると発表した。土砂崩れが起きたのは、北スマトラ (North Sumatra) 州バタントル (Batang Toru) にある水力発電所の建設現場近く。現地は29日夜、豪雨に見舞われていた。国家防災庁の担当者は「3人が死亡した」と述べ、「救助隊が他の被害者を捜している」と付け加えたが、具体的な人数については触れなかった。一方、地元の防災当局者は、中国人作業員1人を含む少なくとも9人が行方不明になっており、大量の土砂の下敷きになったおそれがあると話した。インドネシアでは、雨期に土砂崩れや土石流が発生して犠牲者が出ることが多い。4月上旬には熱帯低気圧「セロジャ (Seroja)」の襲来により、インドネシア東端の島々と隣国東ティモールで合わせて200人以上の死者が出た。
5月7日	ソマリア	土石流	国連人道問題調整事務所 (UN OCHA) は最近の報告書で、ソマリア全土の洪水が約40万人に影響を与え、14地区で101,300人が避難したと述べた。同国雨季 (Gu) の豪雨は、5月7日にモガディシュ (Mogadishu) で深刻な土石流を引き起こし、ワダジル (Wadajir) 地区で家屋を破壊し、9人が死亡した。5月中旬までに、ジョワール (Jowhar) 近くのシェベリ (Shebelle) 川があふれ、周辺の数千人に深刻な被害を与えた。
5月22日	コンゴ民主共和国	火山災害	5月22日の夜遅く、コンゴ民主共和国の東部に位置するニイラゴンゴ (Nyiragongo) 火山の岩肌が亀裂が走り、柔らかい溶岩が流れ出し、勢いよく斜面を下り始めた。その一部は、わずか10キロしか離れていない人口150万人の街ゴマ (Goma) へ向かった。場所によっては3階建ての建物ほどの高さまで達した溶岩は、夜空を明るく照らしながら近隣の村々を襲い、道路を埋め尽くした。行く手を阻む建物はすべてのみ込まれ、炎に包まれた。5月25日の時点で15人の死亡が確認されているが、その数は増えると思われていた。ニイラゴンゴ山は、頂上の火口に永続的な溶岩湖がある世界でも数少ない火山の一つ。落ち着いたためしがなく、1977年と2002年にも噴火して、大災害を引き起こした。1977年には、溶岩に襲われて600～2,000人が死亡したとされている。2002年には、ゴマの5分の1が破壊され、12万人が家を失い、火傷、二酸化炭素による窒息、溶岩の引火によるガソリンスタンドの爆発などで、250人が死亡した。
6月3日	スリランカ	地すべり	同国の災害管理センター (DMC) は、雨期の豪雨による洪水、地すべりが発生し、7日までに17人が死亡、十数万人が避難を余儀なくされたと報じた。スリランカには雨期が年2回あり、農業や水力発電に不可欠な雨をもたらす一方、死者を伴う壊滅的な災害を発生させている。25行政区のうち10区で豪雨による洪水が発生し、少なくとも17人が死亡した。6月4日時点で、ガンパハ (Gampaha)、ラトナプラ (Ratnapura)、コロombo (Colombo)、プッタラム (Puttalam)、カルタラ (Kalutara)、ヌワラ・エリヤ (Nuwara Eliya)、クルネガラ (Kurunegala) の地区では、13万人以上が影響を受けた。その後、豪雨はカンディ (Kandi)、ゴール (Galle)、ケガレ (Kegalle) の住民にも影響を与えた。DMCは、10地区で合計271,110人が影響を受けたと報じた。ガンパハ (3)、ラトナプラ (3)、コロombo (1)、プッタラム (3)、カルタラ (1)、ゴール (1)、ケガレ (5) の地区全体で合計17人の死亡者に加え、数人が行方不明になっていると報じられた。

発生日	国名	種別	概要
6月16日	ブータン ネパール	土石流	<p>ブータンでは、モンスーン豪雨がラヤ(Laya)の山岳地帯で土石流を起こし、少なくとも10人が死亡した。ロタイ・シェリング(Lotay Tshering)首相は声明の中で、6月16日の早朝に起こった災害で、10人が死亡、5人が負傷、そのうち2人が重傷を負ったと述べた。犠牲者は、ラヤで冬虫夏草を収集していたグループのメンバーとのこと。非常に辺境の地である被災地には、兵士を含む救助隊が派遣され、ヘリコプターによる負傷者の搬送も実施された。首相は遺族を含むラヤの住民に哀悼の意を表するとともに、全国民に向け、モンスーン期の豪雨による危険を認識し、河川での活動を避けるよう求めた。</p> <p>ブータンを襲った豪雨は、ネパールにも影響を与えた。6月16日までの24時間で、バグルン(Baglung)で162.4ミリ、ダルバン(Darbang)で162.6ミリの雨量が記録された。川の水位は急上昇し、16日遅くにはチトワン(Chitwan)地区のデヴガート(Devghat)でナラヤニ(Narayani)川は、危険水位の9メートルを越え10.1メートルを記録した。また、シンドゥパルチョーク(Sindhupalchok)地区のジャルビレ(Jalbare)ではバレフィ(Balefi)川の水位が7.15メートルに上昇した。</p> <p>内務省担当者によると、シンドゥパルチョーク地区のヘランプ(Helambu)とメラムチ(Melamchi)では、洪水や土石流により7人が死亡、60人以上が行方不明になり、260軒の家屋が被害を受け、600人以上が避難した。</p>
7月14日	ドイツ ベルギー	土砂崩れ	<p>ドイツ西部で14日夜、記録的な大雨による洪水が発生した。洪水によりドイツとベルギーでは死者が120人を超え、また大規模な土砂崩れも発生、多くの人が安否不明となった。ロイター通信などによると、ドイツ西部では大雨による洪水で障害者施設の入居者12人を含む103人が死亡、広範囲にわたって家屋や車が押し流された。ケルン(Cologne)近くでは大規模な土砂崩れが起き、複数人が行方不明になった。また、通信が遮断され連絡が取れず、被害の全貌を明らかにできない状況が続いた。ベルギーやオランダでも洪水が発生し、ベルギーでは少なくとも20人が死亡、20人が安否不明と報じられた。</p>
7月18日	インド	地すべり	<p>インド国家災害対応部隊(NDRF)によると、18日未明、ムンバイ(Mumbai)東郊のチェンバー(Chembur)で倒木により壁が崩壊し、近隣住民がその下敷きとなった。がれきから17人の遺体を収容し、その後も救助隊による捜索活動が行われた。また、ムンバイ北東のビクフロリ(Vikhroli)では地すべりにより住宅5棟が被害を受け、6人が死亡した。</p> <p>人口約2,000万人のムンバイでは17日以降、豪雨に見舞われ交通機関に影響が出た。インド気象局(IMD)はその後2日にわたって雷雨を含めた激しい降雨が予想されるとして注意喚起を行った。</p>
7月31日	アフガニスタン	土石流	<p>アフガニスタン東部でパキスタンと国境を接するヌーリスタン(Nuristan)州カムデシュ(Kamdesht)地区の山峡の村で、7月31日に土石流が発生し、少なくとも住民150人が死亡した。同地区を支配下に収める反政府組織タリバンによれば、28日夜に降った大雨によって土石流が発生したという。</p> <p>タリバンは声明で、500万アフガニ(約680万円)の救援金とともに、救援部隊を村に派遣したと主張しているが、支配下地域での緊急事態にどのような資機材で対処したかについては不明。アフガニスタンの約半分を支配下に置いていたタリバンは、米軍とNATO軍の撤退に伴って、急速に支配地域を拡大しており、特に同国の東西に位置するパキスタンとイランとの国境検問施設を手中に収めている。</p>
8月11日	インド	土砂崩れ	<p>インド北部のヒマラヤ(Himalaya)山脈地域で11日、土砂崩れが発生し、少なくとも10人が死亡した。さらに、約60人が生き埋めとなったおそれがあり、現場では救助隊が大量の土砂を撤去し捜索に当たった。土砂崩れは、中国・チベット自治区(Tibet Autonomous Region)に隣接するヒマチャルプラデシュ(Himachal Pradesh)州キンナウル(Kinnaur)県で発生。捜索活動を担うインド・チベット国境警察(ITBP)によると、20~25人の乗客を乗せたバスが、土砂の下敷きになった。</p> <p>テレビ各局は、トラックなどの車が土砂や倒木に巻き込まれ大破している現場の様子を放送。ITBPは「現場から10人の遺体を収容し、負傷者14人を救助した」と発表した。ヒマチャルプラデシュ州首相府によると、約60人が生き埋めになったおそれがあるとのこと。</p> <p>インド北部のヒマラヤ地域では、モンスーン(雨期)を中心に土砂崩れが頻繁に発生している。気候変動によりモンスーンの気候が不規則となり、高山地域で氷河の融解が進んでいることから、土砂崩れによる被害は悪化。同地域では道路の維持管理に影響を与えている。</p>

発生日	国名	種別	概要
8月18日	マレーシア	土石流 地すべり	<p>8月18日、ケダ (Keda) 州ヤン (Yan) 地区で、土石流と地すべりが同地区のグナンジェライ (Gunung Jerai) の急な丘陵地帯を襲い、少なくとも4人が死亡し、2人が行方不明となった。行方不明者の捜索を行うため、マレーシア消防救助局 (JBPM) とマレーシア特別災害支援救助チーム (SMART) が派遣された。ケダのグナンジェライ (ジェライ山) の気象台は、8月18日までの24時間で219ミリの雨を記録した。災害当局は、わずか1時間で90ミリもの雨が降ったと報じた。8月19日午後、JBPMは救助隊が4人の遺体を発見したが、2人はまだ行方不明であると報じた。同州の他の地域でも影響が出ており、バンドル・バハリ (Bandar Baharu)、クアラ・ムダ (Kuala Muda)、ヤン地区の家屋から合計96人が避難した。</p> <p>災害当局は、ペナン (Penang)、ペラク (Perak)、セランゴール (Selangor) 州でも洪水が発生し、国家災害司令センター (NDCC) によると、8月19日の時点で、72家族合計258人が12の避難所に避難したと報告した。</p> <p>ペナンでは、バト・ダヤ (Barat Daya) 地区とセベラン・ペライ・セラタン (Seberang Perai Selatan) 地区で34人が、ペラクのラルト・マタン・セラマ (Larut, Matang and Selama) 地区も浸水し65人が、セランゴールでは、セパン (Sepang) 地区の63人が避難を余儀なくされた。セランゴールのシャー・アラム (Shah Alam) は8月17日までの24時間で90ミリの降雨があった。フルセランゴール (Hulu Selangor) のベルナム川 (Bernam river) は警戒レベル (18.10メートル) を超えて、8月18日には18.18メートルとなっていた。</p>
8月18日	エチオピア	土石流	<p>エチオピア当局は18日、首都アディスアベバ (Addis Ababa) で豪雨による土石流が発生し、7人が死亡したと発表した。同市は前日17日に豪雨に見舞われていた。政府系のファナ放送会社 (FBC) は当局の話として、7人が死亡し、複数の人が病院で治療を受けていると報じた。被災地を視察したアディスアベバの市長はツイッターで、土石流による「甚大な」被害が出ていると述べる一方、詳細は明らかにしなかった。また、「今後数日も大雨が予想されているため、該地域の住民には必要な予防措置を講じるよう求める」と呼び掛け、「われわれも防災への取り組みを強化する」と語った。</p>
8月21日	メキシコ	土砂崩れ	<p>メキシコ東部に上陸したハリケーン「グレース (Grace)」により、洪水、土砂災害が発生し、住宅などが被害を受けた。21日までに生後2週間の乳児ら子ども5人を含む少なくとも8人が死亡した。</p> <p>カテゴリー3のグレースは、風速56メートルの強風を伴い、ベラクルス (Veracruz) 州テコルトラ (Tecolutla) 付近に再び上陸した。同州州都ハラパ (Xalapa) の道路は茶色い泥水の川に変わった。</p> <p>クイトラワク・ガルシア (Cuitlahuac Garcia) 州知事は会見で、テコルトラで7人、ポサリカ (Poza Rica) で1人が死亡したと述べた。うち6人は、丘陵の斜面が崩れ、自宅が埋もれた家族の母親と子どもだった。父親のアダン・モレノ (Adan Moreno) さんはAFPIに、「地面が崩れる音が聞こえた。丘が押し流され、みんなそこにいた。私の妻と6人の子どもが」と声を詰まらせた。モレノさんは親類と一緒に土を掘ったが、助け出せたのは子ども1人だけだったという。妻と生後2週間の娘を含む5人の子どもは助からなかった。</p>
9月8日	パキスタン	土砂崩れ	<p>9月8日早朝、パキスタン北西部のカイバル・パクトゥンクワ (Khyber Pakhtunkhwa) 県で集中豪雨による土砂崩れが発生し、少なくとも20人が死亡した。同国の災害当局は、今年のモンスーンではこれまでに、雨による災害で160人以上が死亡したと報じた。</p> <p>カイバル・パクトゥンクワ州災害管理局 (PDMA) は、9月8日にペシャワール (Peshawar) で家屋が倒壊し1人が死亡、9月10日にマラカンド (Malakand) 地区で土砂崩れが家屋を破壊し、さらに死亡者が出たと報告した。トルガル (Torghar) 地区では、2軒の家屋が土砂崩れに巻き込まれ、土砂の中から7人の子どもを含む13人の遺体が発見された。9月11日23:00頃に発生した災害では、3人が負傷した。更に多くの住民が行方不明になっているおそれがあり、捜索活動が行われた。アボタバード (Abbottabad) 市の郊外では、少なくとも1件の家屋が豪雨による土砂崩れに巻き込まれ、子ども3人を含む5人が死亡、3人が負傷した。スワット (Swat) 地区の地域も影響を受け、3軒の家屋が破壊された。</p>
9月26日	中国	土石流	<p>中国四川省 (Sichuan) 雅安市 (Ya'an) 天全県 (Tianquan) で26日未明に起きた豪雨による決壊型の土石流で、同市天全県喇叭河鎮鍋浪躡水力発電所ダム地区の道路工事現場で17人が行方不明となり、27日午後7時までに3人の無事と7人の死亡が確認され、依然7人と連絡が取れない状態が続いた。無事だった3人のうち2人は軽傷で、1人はけががなかった。</p> <p>緊急救援隊や武装警察、消防、医療、公安、民兵予備役の6チーム、140人余りが現場で機器や救助犬などを使って行方不明者の捜索を行った。さらに、400人による下流での捜索活動も行われた。</p>